

## はじめに

英文法の教科書としては、一風変わったタイトルかもしれませんが。本書は日本語を母語とする学習者を念頭に書かれています。外国語の学習はどうしても母語の影響を受けざるを得ません。その点で英語の学習も例外ではありません。ならば、それを逆手に取って、日本語の影響を受けてしまいがちな部分をあえて前面に出し、それを材料にして英文法の解説を展開しようと試みたのが本書です。

本書は8つの章からなっています。各章の扉裏にはその章で展開される話の流れが手短かにまとめてあります。章によって、節の数に違いはありますが、どの節も「考えてみよう！」「日本語に注目しよう！」「英語と比べてみよう！」「問題解決！」「練習問題」という5部構成になっています。

各節の冒頭の「考えてみよう！」では、その節で扱う文法事項の中から代表的なものを1つ選び、問いの形で提示しています。その問いにはすぐに答えを出さず、次の「日本語に注目しよう！」に進みます。そこでは、話を日本語に転じて、対応する文法事項が日本語ではどうなっているかに注意を向けます。本書は日本語文法の本ではありませんので、日本語に関する記述は、あくまでその節で扱う英文法の項目に関連する範囲にとどめています。「英語と比べてみよう！」では、前節で注目した日本語と比較しながら、その節で扱う文法事項を詳しく解説します。ここでも冒頭の問いにすぐに答えるのではなく、順序立てて話を展開していきます。続く「問題解決！」で冒頭の問いへの解答を示し、必要に応じて補足をしながら話を締めくくります。最後に各節のまとめとして、「練習問題」が用意されています。本文で扱った内容の再確認やさらに深い理解ができるようになっています。やや進んだ問題には星印（☆）がついています。1つの節がさらに小節に分かれている場合も、練習問題は大きな節の末尾にまとめています。

この本で学ぶ皆さんは、冒頭の「考えてみよう！」でまず先に自分の答えを書いてから、本文を読み進めることをお勧めします。「英語で考えてみよう！」を読んでいる途中で、自分が最初に書いた解答が間違っていたことに気がつくかもしれませんが、その気づきが大切なのです。そのためにも、まずは自分で考えてみてください。また、「日本語で考えてみよう！」では、自分の母語でありながら、これまであまり考えたことがなかったことに触れられているかもしれません。しかし、それを知ることによって英文法の理解が深まることが多々あります。まず当該の文法項目に関連する日本語の仕組みを押さえた上で、それを英語の仕組みの正しい理解に「活用」しようとするのがねらいなのです。

本書を英文法の授業などでお使いくださる先生方には、ことばについての直観を意識に上らせる能力（「メタ言語能力」）を育てる形で授業を展開していただければと思います。外国語は母語のように自然に身につくものではありません。自分の母語に対してもっている言語直観をまず確かめた上で、英語の場合にはそれとは異なる仕組みが背後にあることに気づき、それを学んでいくという学習方法のほうが、大学生を含む大人の外国語学習では、はるかに現実的で効率のよい方法だろうと思われれます。同時に、そのような「メタ言語能力」を伸ばすことは、単なる言語の習得を超えて、知的な営みにもつながっていきます。文法の学習が決して無味乾燥なものではないことを体験する機会を提供することも言語教育の重要な役割ではないでしょうか。

このように、本書は、日本語を母語とする英語学習者のために、学習者のもつ母語に対する言語直観を活用し、英文法の学習につなげていこうとする意図で企画されたもので、英文法の総覧を目指したものではありません。したがって、すべての文法項目を網羅的に取り扱うことはしていません。しかし、目次を見ていただくと分かるように、英文法のほぼ全領域に片寄りなくトピックが行き渡るようにしました。同時に、従来の英文法書にはなかった新しい切り口で項目を設定していますし、解説にも統語論や意味論の研究から得られた新しい知見が反映されています。本書が英文法への興味のきっかけとなり、ひいてはより包括的な英文法書への架け橋に

なれば、本書の役割は果たしたと言えるでしょう。

本書の執筆にあたっては、神田外語大学出版局の米山順一氏に様々な局面で大変お世話になりました。本書の構成も米山氏の助言によるところが大きく、編集者と共に本を作り上げていくことの醍醐味を実感することができたのは大変貴重な経験でした。ここにお礼申し上げます。

2020年2月15日

石居康男  
栞原和生